

「栄養士として目ざす道」

社団法人全国栄養士協議会 名誉会長
元昭和女子大学短期大学部食物科学科非常勤講師
(昭和 56 年から平成 9 年まで)

田 中 信

私は栄養教諭実現に生涯をかけて努力し、世田谷区立太子堂小学校に、教員として勤務する 10 年間に、「栄養教諭とは」を実践しました。その成果は大人になったその時の子供達が、皆その指導を守り、実践し、その状況を報告してくるのでよく分かり、私は栄養教諭の必要性を益々確信してきました。

また、昭和女子大学でお世話になりました 16 年間に、理事長、学長としてのお立場からご指導を受けました人見楠郎先生の、学生を思う、溢れる情熱と愛情には、常に大きな感化を受けました。

物事を考える根本として最優先するべきことは、「学生にとってどうか」であり、従って規律を重んじ、勤労を尊ぶという校訓でありました。美しい校舎、校庭の花々を大切に世話をする中高部の生徒たちを、放課後に見るすがすがしさ、それらは皆、栄養教諭を実現しようと努力する私の心の糧となりました。昭和学園こそ人を育てるところと誇りに思いました。

「栄養士として目ざす道」は、昭和学園の歩む道と同じであると思います。

それは厳しい道です。自分に厳しい道です。栄養士は先ず健康でなければなりません。「早寝、早起き、三度の食事をしっかり食べて運動する」の生活を習慣化する努力です。「指導する内容は先ず、その指導者が実行」することから始まります。自分が実行できないものを押しつけるわけにはいきません。それは保護者も同じです。

「子供は言うようにはしない。するようにする」、指導者や保護者が実行する姿を見て、子供は実践する力が湧いてきます。小学校での夏の飲物指導で、「のどが乾いたら麦茶か牛乳を、コーラや生ジュースでないものは飲みません」、教員も保護者も皆守ったので子供も皆守りました。

平成 21 年 4 月 9 日実施